

# ぶどうの樹

2020.11

NO.

27



写真：浴衣DAY（2020年7月29日実施）

## INDEX

特集1：長崎英学史

特集2：永井隆博士のサイン本

特集3：新上五島グローバル化プロジェクト

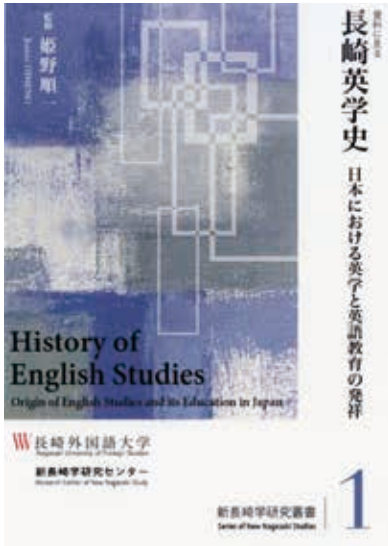
特集4：エアラインサークル&カウンセリング

7 チャペル通信

11 寄付事業のお礼と報告

8 大学情報

# 新長崎学研究叢書第1巻 「資料に見る長崎英学史—日本における英学と 英語教育の発祥—」を刊行しました



新長崎学研究センターは、長崎外国語大学創立75周年、日本英語教育発祥162年を記念して、「新長崎学研究叢書」シリーズ第1巻『資料に見る長崎英学史—日本における英学と英語教育の発祥—』（長崎文献社）を刊行しました。本書は、昭和34年に本学（当時は短期大学）が中心となって刊行した『長崎における英語教育百年史』と、長崎学の先駆者である古賀十二郎先生が出版された『長崎洋学史』のなかの英学および印刷史の部分が、解題とその後の研究紹介とともに復刻収録されています。

## ～出版の経緯など～

出版のきっかけは、本学の創設者青山武雄先生が60年前に短大創設10周年を期して、『長崎における英語教育百年史』（英語教育発祥百年記念事業委員会）を出版していることを知ったことでした。このとき英語教育を看板とする長崎外国語短期大学が、長崎の英学と英語教育の100年の歴史を顕彰していることを知りうれしく思いました。しかしこの本は長崎英学の入門書なのですが入手困難でした。現物を古書店から入手された石川学長からお借りできたのは幸いでした。栗屋理事長から、『英語教育史重要文献集成 第5巻 英語教育史研究』（江利川春雄監修、2017年）に本書が収録されているとお聞きし、これを本学の教職員・学生・長崎市民の皆様に取りやすい形で提供できないかと考えました。

また、古賀十二郎先生がお書きになった『徳川時代に於ける長崎の英語研究』（九州書房、1947年）を、長崎大学定年の時附属図書館に返却したことを思い出しました。この書も長崎英学および英語教育史の水準の高い研究成果なのですが稀覯本となっています。その後古賀先生の手稿は追補して藤木博英社に預けられ、先生亡き後長崎学の先達中西啓先生により編集され、『長崎洋学史』全3巻として出版されましたが、これも稀覯本です。さらに古賀以後の英学史・英語教育史研究も両学会に所属する先生方の手で進展しています。

そのような経緯のなかで、長崎外国語大学の建学の精神を磨くべく設立された新長崎学研究センターの5年目の事業として「資料に見る長崎英学史：長崎における英学と英語教育の発祥」と題し、解題を付して長崎英学史の古典を復刻し、新しい研究の紹介を付け加えて出版を企画した次第です。

新長崎学研究センターは様々なご寄付により運営されています。この出版については、長崎バス観光開発振興基金の地域支援事業のご支援をいただきました。

## ～本書の内容と出版の狙い～

イギリス人および英語の日本への初渡来は、1600年に大分の臼杵に漂着したオランダ船リーフデ号のイギリス人乗組員ウィリアム・アダムス（三浦按針）にまでさかのぼります。按針の徳川家康への働きかけが成功して、長崎では1613年平戸にイギリス商館が開設され、商館は20年にわたり貿易を営み、ここから長崎に英語が伝わりました。

国を閉ざした江戸時代、長崎の出島でだけオランダ貿易が許され、蘭通詞の蘭語と蘭書に基づく蘭学の震源地となりました。英語に再び関心が高まったのは、1808年に英船が蘭船を探索して長崎港に強制入港したフェートン号事件からです。ナポレオン戦争で対立していたイギリスの軍艦フェートン号がオランダ船を探索して長崎湾に強制入港したのをきっかけとして、蘭通詞たちに英語を学ぶことが命じられました。このときオランダ商館長ヤン・コック・ブロンホフの指導の下、日本最初の英学研究書『諳厄利亜言語和解』（1810）、英語学習書『諳厄利亜興学小笈』（1811）、わが国最初の英和辞書『諳厄利亜語林大成』（1814）が完成します。日本における英語研究、英語学習および英和辞書の制作は長崎から始まりました。2008年は英学200周年記念の年でした。日本英学史学会と日本英語教育学会が共催した長崎大会を長崎大学在職中お世話する機会がありました。

日本における学校での英語教育は、安政5（1858）年7月に岩原屋舗内の奉行支配組頭永持享次郎の官舎において設立された英語伝習所がはじまりでした。校長先生である頭取は、蘭大通詞の楳林栄左衛門と西吉十郎、英語の先生は海軍伝習所のオランダ人教官ウィッヘルスとデ・フォーゲル、イギリス領事館員フレッチャーでした。学生は蘭通詞の子弟や地役人に唐通事の子弟も混じっていました。日本における最初の英語教育も長崎から始まったわけです。

今年は長崎において日本初めての英学研究書『諳厄利亜言語和解』が編纂されてからちょうど210年、わが国初めての学校における英語教育が長崎の立山で始まってから162年、この間の長崎における英学および英語教育の歴史を検証することは、日本における「英語の歴史」を詳らかにする研究に重なります。古い表現を我慢して本書を読めば、日本の英語のルーツが詳しく理解できます。そのような意味で本書が、本学で外国語を学ぶ学生の皆さんの共通の誇りを生み出す書となり、英語学習の入門書ともなることを願っています。

本学副学長・新長崎学研究センター長  
姫野 順一



## 永井隆博士のサイン本

学内のどこかに、永井隆博士から本学の建学の母体となった長崎YMCA及び本学院の設立者の一人、青山武雄先生への献辞が記された本がひっそりと保管されています。

永井隆博士は、自らも被爆しながら傷病者の救護に尽力された、長崎医科大学（現在の長崎大学）病院の医師であり、『長崎の鐘』\*や『この子を残して』\*等のベストセラーとなった著作を通じて戦争のない世界平和を訴え続けられた、キリスト者パウロ永井隆氏でもあります。

保管されている本のうち一冊は、『いとし子よ』\*という、1949年10月に大日本雄辯会講談社から出版された本で、見返しに「パウロ永井隆 YMCA御中」と筆で書かれています。

もう一冊は、『花咲く丘』\*で、1949年6月に日比谷出版社から出版されており、表紙には「謹呈 YMCA青山先生」と万年筆の青い文字で記されています。

被爆体験を踏まえて平和を願い続けられた永井隆博士の著作に記された献辞は、戦後すぐに本学の礎を築かれた、青山武雄先生らの志を応援しているかのようで、本学にとっての貴重な資料だと思います。

どちらの本もライブラリーの所蔵資料ではなく、青山武雄先生の御子息で、本学でも教鞭をとられていた青山愷先生が所蔵されている、青山武雄先生の遺品の一部です。かなり傷んでいた本の補修について青山愷先生からご相談を受けた際に存在を知りました。

1945年8月の終戦からわずか3か月半後の12月には、YMCAによる長崎外国語学校の設立事務所が開設され、その1年4か月後の1947年4月に長崎外国語学校が開学し、そこには市民の語学教育センターとしての夜間専攻科も開設されています。ここに、「世界平和と人類の共存共栄の理想を実現するためには、外国語を用いて異なる国々の人々と対話し、異文化を理解し尊重する若者を養成しなければならない」という、建学の精神のエッセンスを感じることができます。一人でも多くの人に外国語と異文化を学ぶ機会を用意しようと考えられたと想像できるからです。

この2年後に、前述の永井隆博士の著作の2冊が出版されており、出版の翌年、1950年4月には、長崎外国語短期大学が開学しています。

『花咲く丘』の序文には、「荒野を花咲く丘に変えていく人々の魂のうごきを書いたつもりである」と記されています。永井隆博士から青山武雄先生へと本を介して伝えられた何かがあったかもしれない、と想像はふくらみます。

永井隆博士が天に召されたのは更にその翌年、1951年5月です。永井隆博士と青山武雄先生らがどのような関わりを持たれていたのかはわかりませんが、カトリックとプロテスタントの違いこそあれ、キリスト者として信仰と志をもって後進のために力を尽くされた方という共通点を見出すことはできます。

永井隆博士の御子息、永井誠一氏の著作『永井隆：長崎の原爆に直撃された放射線専門医師』\*\*には、「昭和二十年（1945年）十月には、救護に当たった被爆者の病状などを記録した、医学界では世界最初の『原子爆弾救護報告書』\*を、長崎大学学長代理・古屋野宏平教授に提出した」という記述があります。古屋野宏平先生は、青山武雄先生らとともに本学院を設立され、初代理事長となられた方です。このことから永井隆博士とのご縁を推察できるように思います。

終戦後、本学の礎が築かれて75年が経とうとしています。瞬時に世界中のあらゆる場所とつながる今の時代にはなおのこと、コミュニケーションの障壁を作らないために外国語と異文化を理解する力が必要だと思います。対話し、理解し尊重する、という建学の精神の中にある理想のバトンを未来の世代につなげたい、と願う2020年です。

\*『長崎の鐘』『この子を残して』『いとし子よ』『花咲く丘』『原子爆弾救護報告』は、本学ライブラリー所蔵『永井隆全集』全3巻所収。

\*\*『永井隆：長崎の原爆に直撃された放射線専門医師』は、本学ライブラリーに所蔵あり。

# 新上五島グローバル化プロジェクト

本プロジェクトは、「Gaidaiプロジェクト」科目のひとつで、「新上五島グローバル化プロジェクト」です。この新上五島グローバル化プロジェクトは、2018年に本学と旧十八銀行に新上五島町の三者で締結した産学官三者連携協定に基づき始まりました。

Gaidaiプロジェクト科目の目的は学生が主体となって、オリジナルな活動を通じて、社会的意義あるものを作り上げていくことです。そのなかで、私たちのプロジェクトは、長崎県五島列島の北部に位置する新上五島町の活性化、魅力発信、知名度の向上を目指して、多言語で発信していく取組です。

今年度前期（5月～8月）に行った主な活動内容を紹介します！今年は新型コロナウイルス感染症感染拡大が世界的にあって、例年通りの活動は困難でした。しかし、私たちは当初よりZoomなどを活用して新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策をとりながら、次のような活動を行うことができました。



写真1



写真2

## ○物品販売(6/22～7/3) (写真1)

上五島の名産品である「五島うどん」や、かんころもちを使ったチップス「かりころもち」、椿油を用いた化粧品などを学内や学生寮で販売しました！なかでも、「かりころもち」は食べやすさと手頃な値段という点で学生人気No.1でした！

この活動内容は、NHK長崎（写真3）と毎日新聞にも取り上げていただきました。強力な宣伝の効果もあり外部から足を運んでくださった方もいらっしゃいました。



写真3

## ○現地フィールドワーク(7/27～7/29)

上五島の魅力を発信するためには、現地でのフィールドワークは欠かせません！

上五島の教会、海や緑を満喫しながらの自然体験、ご当地グルメなどなど！魅力が詰まった上五島を感じる事が出来ます！

前期では、上五島の役場、商工会、ホテルといった企業訪問（写真2）も行い、貴重な体験となりました。このような地域企業との連携も大切にしていきたいと思えます。

## ○SNS投稿

これまでの活動内容はインスタグラムにも投稿しています！こちら各言語を用いて随時更新中です！ Instagram ID→ [sgpj2020](#)

## ○飲食店マップ

大学で学んでいる語学を活かし英語、中国語、韓国語、仏語の4言語に対応した上五島飲食店マップを作成しました。

（文：4年 山城・宮田・田中）

## エアラインサークル&カウンセリングを実施しています

元ANA客室乗務員である中島恵美先生のご協力のもと、企業研究や職種研究、採用情報の共有を目的として、講義実施期間中（毎週火曜日）にエアラインサークル&カウンセリングを実施しています。春学期には、航空業界で活躍する卒業生や現役客室乗務員の方とオンラインで懇談会を開催するなど、学生の要望に応じて様々な取り組みを実施しています。

コロナ禍において航空業界の募集の中断、中止が相次ぎ、戸惑う学生が多くいましたが、“今できることを考え、前向きに行動すること”を心に留め、学生生活を過ごしています。



ヘアメイク講座も開催！  
サークルを通して、先輩後輩の情報交換が盛んにおこなわれています。



### ■卒業生の声 木下 七海 さん(2018年度 現代英語学科卒業)

私は、福岡空港でグランドハンドリングをしています。主な仕事内容は、航空機の誘導や航空機への貨物等の搭降載作業などです。グランドハンドリングは直接お客様と関わる仕事ではありませんが、安全運行に欠かせない大事な役割のため責任感を感じられ、やりがいのある仕事だと思い就職しました。学生時代はエアラインサービス関連の授業を受講し、セミナーや説明会への参加をしていました。また航空業へ就職していた先輩に仕事内容や会社の雰囲気など詳しく話を聞き、イメージを膨らませていました。現在コロナ禍で、国内線は3割減便しており、国際線は全ての便が欠航となっていますが、国内線・国際線共に、通常時にはなかった貨物便が就航するなど、コロナ禍でできることをしています。在学生の皆様は不安なことが多いと思います。しかし、自分が就きたい企業の情報収集や面接の練習をするなどモチベーションを下げることなく頑張ってください。

(文責：キャリア支援課 池永 亜加利)

# 今、そして、あしたへの門をたたく



パク ヨンギョ (国際コミュニケーション学科教授)

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」

(マタイによる福音書7章7-8節)

この言葉は大学1階のコミュニティラウンジの柱に韓国語・英語・日本語で掛けられています。

「先生は何歳ですか」と、よく学生から聞かれると、「リカちゃん人形と同級生です」と返します。「リカちゃん人形」が製作されたのは1967年ですが、私が日本という国への門を叩いたのが28歳です。韓国で教育学部卒業後、将来への不安と悩みのすえ、新しい所へ行って見ようと思い、日本へ来ました。訪日の初日、沖縄的那覇空港でお迎えの先生に「ありがとうございました」という11文字をも言えず、日本語のレベルは「ひらがな」を読める程度でした。当時の日本語学習は学問のためではなく、「生きるため」、すなわち「アルバイトのため」の学習でした。単語帳を持ち歩き、拾ってきたSONY製のテレビで朝のNHK7時ニュースを毎日見るなど、必死に学習した結果1年半後には日本語能力試験一級が取れました。だが、日本人の「そうですね」がYesかNoかをわかるまでは3年以上かかりました。

その後、日本の大学院への門をたたきました。大学院への入学を自分なりに「入院」と表現しますが、約10年間の「入院生活」を終え、数え切れない日本の社会への門をたたきましたが、なかなか開かなかったです。韓国の田舎へ帰ろうと、何度も思ったことがありましたが、門をたたきつづけると、その様子を見ている人が必ずいると信じておりました。那覇で日本語を覚え、博多で入院生活をし、熊本で働きました。そして、今は、長崎で生活しています。

さて、これから皆さんの前には数えきれないほどの沢山の門が現われます。その門をたたく前に、まず、自分自身の門をたたき、次に周りのひと（友人、先輩、後輩、先生）の門をたたいてみてください。ひとが自身の門をたたいてくれるまで待つより、自分からたたいてみてください。すると、これまで見えなかったこと、気づかなかったことがわかるようになると思います。

みなさんには「将来にたちはだかる大きな壁」がいくつか現れます。壁なので叩く門もありません。門がなければ作るしかありません。「若さ」というハンマーであきらめず、めげずにたたいてみてください。すると、みなさんのそれぞれの門ができると思います。その門をくぐりぬけていくと、それぞれのあゆむべき道が現われると思います。しかしながら、たたいても開かない、門ができそうもない時があります。その際にはしばらく、何もせずに過ごしてください。その時間は決して無駄ではありません。あえていうと、必要な無駄であります。必要な無駄の時間を大切にしながら、また、門を叩いてください。そうすれば、開かれます。

今から、まず、自分自身の門を叩いてみましょう。そして、明日への門をたたいてみてください。

(2020年6月24日チャペルアワー奨励から)

## 2020年度語学セミナーを開講しました

大阪電気通信大学の南津佳広准教授を講師にお招きし、8/27（木）～30（日）の4日間、本学にて語学セミナーを開講しました。「通訳ワークショップ」と題して、逐次・同時通訳の訓練を行いつつ、高度な英語の運用能力（語彙、文法、発声、発音、流暢さ）日本語・英語での説得力ある話し方、話し手の要点と論理構成を迅速に把握して伝える技術を伸ばす内容で行いました。



（文責：社会連携センター 中野真琴）

## 夏のオープンキャンパス、学校見学会を実施しました

2020年度の夏のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7/18は70名の人数制限のもと実施、8/2、8/22、9/19のオープンキャンパスは中止とし、規模を縮小した学校見学会と形を変えて実施いたしました。

新型コロナウイルスに加え、大雨などの災害にも見舞われた中、全4回で113名の高校生が参加してくれました。

今年度は新型コロナウイルスの影響でほとんどの進学説明会が中止となるなど、なかなか高校生と接する機会がありませんでしたが、今回のオープンキャンパスと学校見学会は高校生にとっても本学にとっても貴重な時間となりました。

（文責：入試広報課 神原翔）





## 特殊詐欺を未然に防ぎました

国際コミュニケーション学科3年生の蒲原祐紀さんを、学生表彰規程第2条5号「人命救助、災害救助等に貢献し、本学の名誉を著しく高めたと認められる学生」に該当するものとして、学長賞を授与しました。

本学生がアルバイトをするコンビニエンスストアにおいて、電話で誰かと話しながら電子マネーを購入しようとする高齢者を不審に思い、事情を尋ねたところ、その内容から特殊詐欺の被害にあっている可能性が高いと判断。店長と共に対応し、特殊詐欺被害を未然に防いだ功績によるものです。

(文責：学生支援課 廣瀬雄一)



## 2020年度第1回新長崎学研究センター研究集会を開催しました

9月9日(水)、「多文化共生を考える」をテーマに研究集会を開催し、金子奈央講師と新里喜宣准教授が研究報告を行いました。

### ①「多民族国家マレーシアにおける移民、難民の教育-ボルネオ島サバ州における展開」金子奈央

マレーシアのサバ州におけるインドネシア、フィリピン移民に対する教育の現状について現地調査をもとに報告をしました。国民を構成する主要三民族(マレー人、華人、インド人)以外の先住諸民族がマジョリティであるサバ州において、中央集権化された国民教育からの自立を目指す動きがあります。彼らが誰を包摂した上で「我々の社会」をつくろうとしているのか、主要な社会構成員である移民をどう位置づけようとしているのか、教育という観点から考察することを試みました。



### ②「韓国巫俗の近現代-1960年代以降の言説を中心に-」新里喜宣

韓国近現代における巫俗の歴史を、言説に注目して考察しました。巫俗は、植民地時代には迷信として社会から批判的に語られていましたが、1945年の解放以降、韓国文化や宗教の根幹として語られるようになりました。しかし、文化や宗教として認識されつつ、もう一方では依然として巫俗を迷信として捉える社会的視線が存在しており、このような相反する巫俗認識の関係、葛藤の諸相に着目した発表を行いました。



(文責：社会連携センター 中野真琴)

## 本学留学生が矢上幼稚園の園児とオンラインで交流しました

7月30日（木）、矢上幼稚園の園児の皆さんと本学留学生がオンラインで交流会を行いました。交流会では留学生が日本語で自己紹介をし、“dog”や“cat”等の簡単な英語と、フランス語での挨拶を園児の皆さんに紹介しました。その後しりとりをしたり皆で「幸せなら手をたたこう」を一緒に歌って踊り、最後は留学生からの手紙を紙飛行機にして矢上幼稚園へ向けて飛ばしました。短い時間での交流でしたが園児の皆さんと楽しく交流ができ留学生にとっても貴重な経験となりました。



（文責：社会連携センター 中野真琴）

## 本学留学生が被爆者が英語で語る被爆体験を聞きました

7月20日（月）、被爆者で長崎平和推進協会継承部会英語研修班の築城昭平氏と計屋道夫氏が英語で被爆体験の講話を行い、出席した留学生は真剣に耳を傾けていました。

この講話は、テレビ局が同研修班の最年長メンバーである築城昭平氏（被爆当時18歳）の英語による講話デビューを目指すプロセスを番組化したいとの依頼を受け実施したものです。

講話後もお二人は留学生からの質問に答えられました。

また、テレビ局からの質問（取材）に留学生は積極的に答えていました。



（文責：社会連携センター 中野真琴）

## 教育研究の整備に関わる寄付事業のお礼と報告

平成27年4月から開始いたしました「教育研究の整備に関わる寄付事業」は令和2年9月末現在で735件、30,174,000円（令和2年4月1日～令和2年9月30日：82件、3,620,000円）のご寄付を賜り、ご支援をいただきました同窓会、保護者会、取引先、在学生保護者を始めとした多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

なお、皆様から賜りました寄付の内から3,330,000円を令和2年度下期に教育環境整備の一環としての実施いたしました体育館照明耐震化およびWiFi環境整備費用の一部に充当させていただく予定にしております。

皆様の温かいご支援にお応えすべく、教育環境の整備のために鋭意努力をして参る所存でございますので、今後とも本事業の趣旨にご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 寄付者ご芳名一覧 令和2年4月～令和2年9月ご寄付分 たくさんの温かいご支援ありがとうございました

#### 個人の部

(敬称略)

栗屋 曠	王 紅岩	小道 隆	知名 清	野中 誠司	平田 朋宏	松尾 博則	森 隆子
一宮 啓祥	小川 知子	庄野 ユミ子	道崎 満寿男	浜崎 俊一	平田 芳文	松川 徳子	森脇 浩
岩田 耕作	川原 仁幸	田中 希美	唐原 こずえ	原野 浩二	深堀 武史	松崎 幸則	山本 薫
上園 安二	空閑 次男	田中 多鶴子	鳥貴 政明	姫野 順一	藤河 摩知子	松澤 善裕	吉岡 みどり
江口 克彦	小泉 みよし	玉置 佳子	長田 明美	平下 美登里	藤本 幸治	宮崎 昭義	

#### 法人の部

株式会社アイコック	株式会社釘山工務店	長崎文化放送株式会社	星野管工設備株式会社
アダチ産業株式会社	株式会社グリーン・マット	一般財団法人長崎YMCA	松尾建設株式会社 長崎支店
株式会社一広	株式会社松栄設備	株式会社西九州エレベーターサービス	株式会社松匠
有限会社大谷書店	シンシア	日新火災海上保険株式会社	株式会社松田久花園
有限会社小田警備保障	株式会社セキュリティハウスケント	林兼石油株式会社 長崎支店	有限会社山田花屋
九州印刷株式会社	長崎外国語大学ビジネス株式会社	株式会社プロゼ	
有限会社九豊工業	株式会社長崎消毒社	株式会社平安閣	

## 新長崎学研究に関わる寄付事業のお礼と報告

平成28年4月から開始いたしました「新長崎学研究に関わる寄付事業」は令和2年9月末現在で172件、11,694,000円（令和2年4月1日～令和2年9月30日：40件、289,000円）のご寄付を賜り、ご支援をいただきました多くの皆さまに深く感謝申し上げます。

なお、皆様から賜りました寄付の内から2,800,000円を令和2年度下期に新長崎学研究に係わる「長崎英語教育史」出版、貴重図書購入、研究集会の費用の一部に使用させていただく予定にしております。

今後ともグローバル人材の育成という本事業の趣旨にご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 寄付者ご芳名一覧 令和2年4月～令和2年9月ご寄付分 たくさんの温かいご支援ありがとうございました

#### 個人の部

(敬称略)

栗屋 曠	江口 克彦	川原 仁幸	道崎 満寿男	長田 明美	藤河 摩知子	森脇 浩
石井 眞紀子	王 紅岩	田中 希美	鳥貴 政明	浜崎 俊一	松尾 博則	山本 薫
上園 安二	小川 守	田中多鶴子	長岡 恭子	原野 浩二	森 隆子	

#### 法人の部

株式会社アイコック	株式会社グリーン・マット	一般財団法人長崎YMCA	株式会社松匠
株式会社稲崎産業	株式会社サブネット	株式会社ハルフードシステム	
扇精光ソリューションズ株式会社	株式会社セキュリティハウスケント	株式会社平安閣	

## 寄付に係る税金（所得税・住民税）の優遇制度について

寄付をされると次の要領で税金が戻ってきます。詳しくは、法人事務局財務課までお問い合わせください。

**個人** 寄付金が2千円を超える場合は、超えた金額に40%を乗じた金額が税額控除されます。【(注)：寄付金額は年間総所得金額の40%、税額控除は所得税額の25%がそれぞれ限度額となります。】

地方自治体が条例指定している場合は、住民税についても寄付金控除が適用されます。

※各自治体の条例指定の有無につきましては、各自治体によって異なりますので、ホームページ等でご確認くださいるか、直接自治体へお問い合わせください。

**法人** 受配者指定寄付金によって、日本私立学校振興・共済事業団を通じて寄付していただけますと、法人税法上、その寄付金を全額損金へ算入できます。【事前の手続きが必要ですので、ご説明をいたしますので寄付の際は大学にお申し出ください。】

### ご寄付のお申し込みについて

お電話またはメールで、ご住所、お名前をお知らせください。  
法人事務局よりご説明および必要書類をお送りいたします。

お問い合わせ先

学校法人長崎学院 法人事務局 財務課（担当：森脇・前田）

Tel 095-840-2003（法人財務課直通） Email keiri@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp



2020年10月31日 本学体育館特設ステージにて

10月31日に学友会主催による Horror Carnival が体育館で開催されました。本イベントはコロナ禍により中止となった外語祭に代わるイベントであり、検温と手指消毒、体育館内の換気、座席を1m間隔で設置する等の新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行ったうえで、学生及び教職員のみを参加対象に実施しました。教員による異国奇譚（海外の怪談話）や学生による仮装コンテスト、ビンゴ大会等を行い、学生は「普段とは異なる大学の雰囲気や、友人や先生たちの仮装も楽しめた」と話していました。

（文責：学生支援課 廣瀬雄一）